

情報機器を利用する上でのコミュニケーションの工夫

埼玉県高等学校情報教育研究会 研究委員 新座柳瀬高等学校・坂本峰紹

1 情報科における「コミュニケーションの工夫」とは

「コミュニケーション」という言葉は、現行の学習指導要領の情報Cの目標に「情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養う」として示されている。内容では、「(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション」の「ウ コミュニケーションにおける情報通信ネットワークの活用」とコミュニケーションに関する記述がある。ただ、ここで出されている「コミュニケーション」は、コミュニケーションの目的によって情報通信の手段を変えることを説明するものであり、あくまで情報通信ネットワークを主として説明するためのものであった。しかし、新学習指導要領では、「社会と情報」の目標に「情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる」とあり、コミュニケーションを行う能力を養うことが示されている。また目標に対応して、「内容とその取扱い (2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション」に「ア コミュニケーション手段の発達」と「ウ 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション」の2つの項目が作られている。

平成22年1月29日に更新された高等学校学習指導要領解説*2では、これらの内容について具体的な記述があるが、例えば情報通信技術に伴ってコミュニケーション手段が変化したことや、情報通信サービスを同期や非同期、1対1や1対多などのコミュニケーションの形態との関わりで理解させる学習が示されている。また、例題を設定し、目的や場面に応じて適切な手段を選択し、効果的なコミュニケーションを行う学習も示されている。

本研究では、情報科として、コミュニケーションをとるための技術を育成する具体的な授業案を示し、情報科を担当する教員がコミュニケーションの指導をする際の一助となることを目的としている。

2 授業提案のまとめかた

本研究では、情報科としてコミュニケーションをとるための技術を身につけるために、情報機器や情報通

信ネットワークを適切に活用する中でコミュニケーションの手段を如何に工夫するかを提案する。

ここであげるコミュニケーションとは、社会科学としてのコミュニケーションを指す。

ただ、情報機器といっても、各学校によって設備の違いがあるため、一概に提案と同じ授業が実施できるわけではない。その点を考慮し、研究では指導案ではなく授業の一部分で実施できる授業提案という形にしている。各学校の実情に応じて、必要な部分を抜き出し、指導に役立ててもらいたい。

いくつかの提案については、実践をしており、実践してわかった課題も提案の中で書かれている。

また、具体的に理解できるように授業プリントを添付してあるので参考にしてもらいたい。

本研究では、以下の8項目の授業を提案している。

- 3-1 プロフとエントリーシートの比較
- 3-2 まずは発言（投稿）するーtwitterを活用した実践
- 3-3 Web カメラを使ったコミュニケーションの工夫
- 3-4 掲示板を使用した議論
- 3-5 同じ資料でプレゼンテーション
- 3-6 プレゼンテーション ～先生になろう～
- 3-7 プレゼンテーション～卒業旅行を計画しよう～
- 3-8 グループワークによるプレゼンテーションから学ぶコミュニケーション

3-1 から 3-4 までは、情報通信ネットワークを活用するうえで必要なコミュニケーションの技術を学ぶための授業提案である。twitter や Web カメラなど、新しい技術を授業に取り入れており、コミュニケーションの技術だけではなく、今後の情報化社会の進展を学ぶことへもつながると考えている。

3-5 から 3-8 は、同じプレゼンテーションというテーマで、違った切り口からコミュニケーションの技術を学ぶことを提案している。

情報科の授業の中で、プレゼンテーションを実施されている学校も多いと思うが、参考にしてもらいたい。